

2010年8月30日

～利用者の保護者から頂いた手記～

名張育成園レインボークラブで、実際にトライアル雇用から就労された利用者のご家族から温かい手記を頂きました。

19歳の息子は、重度の知的障がいに伴う自閉症です。3ヶ月間のトライアル雇用を終えて、6月から農事生産法人で雇用をしていただくことになりました。職場までは徒歩とバスで1時間かけて通勤し、ビニールハウスで水耕栽培の事に励んでいます。

私たち夫婦が息子に「働く大人」になってほしいという夢を抱いたのは、多動が少し落ち着いてきた10歳の頃でした。その当時の障害児学級の先生方と一緒に「働く大人」になるための子育て10年計画をスタートさせました。障がい特性であることばでのコミュニケーションの弱さやこだわりへの対応に加え、生活習慣や交通ルールなど教えていかなければならないことは山のようにありました。これらのスキルは、働くためだけでなく、息子の人生がより豊かになるように願いを込めて1つ1つ丁寧に教えていきました。

高等部になって、自主通学や企業実習にもチャレンジしました。先生方や実習先でも丁寧に指導をいただき、息子も精一杯頑張りましたが、残念ながら就労にはつながりません。「働く大人」になるという夢のバトンは、学校からレインボークラブへつなぐことになりました。

レインボークラブでは就労移行支援事業所として、通所当初から職員の皆様に「かゆいところに手が届く」と実感できる支援をしていただき、息子にとって貴重な1年となりました。今回のトライアル雇用では、息子がうまく環境に適應できるよう配慮をしながら、仕事や通勤支援をしていただきました。会社では、息子が今持っている力を評価していただき、就労のチャンスを与えてくださったことに感謝しております。

息子は今、「働く大人」のステージの階段を登ってきたばかりです。皆様のご支援をいただきながら長く仕事を続けられるように応援したいと思います。そして仕事と余暇も楽しめる豊かな人生になるよう願っています。

